



京都御所（建礼門）と梅

春

春 京都御苑を写す

北奥耕一郎



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
一般財団法人 国民公園協会
京都御苑 加藤博之
編集
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。

御苑が通学路

京都御苑は私の青春そのものです。といひますのは御苑の西側にあった自宅から東側にあった府立鴨沂高等学校と立命館大学（当時の広小路キャンパス）へ何年間も御苑を横断して通学していました。

蛤御門から入り、まっすぐ東へ向かって大宮御所の北側を通り、清和院御門を出ると、清コースでしたが、いつか何往復したことが、いっしょ。

この京都ならではの通学路は、蛤御門の名前の由来を調べたり、幕末の京都に思いを馳せるなど歴史の勉強に大いに役立ちました。そしてさらには、あつたかつたのは、四季折々の風情を見ることができたことです。そのことが私の感受性を刺激したのか、風景写真を生涯の仕事にしようと決意したのはその頃でした。

御苑の四季に学ぶ

通学を始めた頃は玉砂利の道をひたすら歩いていたので、次第に周りの情景が目が行くようになります。美しい花が目につく



梅林にて



近衛邸跡の枝垂桜



桜と大宮御所

と近づいて何の花だろうとしばらく見入った。萌えいずる新緑からやがては散り果てる落葉樹の摂理にも心を打たれました。

また、常緑樹の松が古葉、若葉の交替はあつても、季節の移りの中でその翠を保ち、年月を経て変わることもないという「松樹千年翠」という言葉もそのとき覚えました。

こうして御苑の自然から四季の美しさを学ぶことができたのは、幸ぶことができたのは、四季の中でも春は格別です。新聞に「梅だより」が載り始めると御苑内の梅林に多くの市民が訪れます。寒い冬を耐えて待ちに待った開花です。可憐な梅の容姿と香りを求めて集う市民の顔もつぼみのようにほころびています。

ふたたび御苑に

プロの写真家になったからは二十年以上にわたり日本全国や海外へ出かけていたため、御苑からしばらく遠ざかっておりました。

ところが京都で多くの写真教室を指導するようになって梅林や桜の撮影実習などでふたたび訪れるようになった。特に最近になって閑院宮邸跡や拾翠亭が一般公開されていることを知り、受講生と共に何度か伺っています。貴重な室内が撮影でき、ありがたく思っております。

通学していた頃にはなかった京都迎賓館など、変わらぬと思っていた御苑も少しずつ変化しています。都心にありながら国民公園として大切に保存されている自然をもっと撮影して、新たな魅力を見つけて努力をする所存です。京都に御苑があつてよかった、とつくづく思っています。

文・写真／北奥耕一郎
（写真家 京都観光 おもてなし大使）

苑内散策おすすめコース 新しくなる閑院宮邸跡庭園のご紹介 竹元 恵

京都御苑の南西角に位置する閑院宮邸跡は、江戸時代から続いた閑院宮家の屋敷跡です。ここには現在、様々な展示物と解説により京都御苑の歴史と自然について知ることのできる収納展示室と復元整備により蘇った庭園が無料公開されており、年間を通じて多くの方に訪れていただいています。今春、閑院宮邸跡の西側に遺された非公開となっていた庭園を新たに復元し、閑院宮邸跡の庭園として一体的に観賞していただけるようになり、概要をご紹介します。

庭園の歴史と復元整備の経緯
新たに公開されるのは、閑院宮邸跡の西側に広がる約1900㎡です（図）。ここはかつて閑院宮家の邸宅の一部でしたが、明治期に宮内省（現在宮内庁）の所管となり、明治二十五年に宮内省京都支庁の所長官舎が建てられました。官舎は敷地が宮内庁から環境省に移管される直前の平成十八年三月に取り壊されましたが、庭園はその後も遺され、後の調査により明治から大正期の趣を残した貴重な遺構であることが確認されました。そこで当時の庭園を復元し、解説板や腰掛けを設け、新たな散策路により南東の庭園と結ぶことで、江戸、明治、大正時代の庭園を一度に観賞していただける場所として公開することになりました。

庭園の特徴
庭園は遺水と園池の組み合わせで構成されています。遺水は庭園内に水を導き流れるようにする伝統的手法で、京都御所御常御殿庭園・同小御所庭園、旧近衛邸庭園、旧九條邸庭園などにも見られるものです。このほか海辺の景色を表現する洲浜意匠など、本庭園は小規模ながら江戸時代の公家から江戸時代の公家が好きだ庭園意匠を踏襲し、気品ある趣を醸し出しています。今回の整備ではかつての官舎の間取りを木枠で表示し、庭に面した主室跡に縁台を設け、この春、歴史散策に出かけませんか。（京都御苑管理事務所 普及指導企画官）



丸太町通

催事案内

■平成26年京都御苑自然教室

初心者の方を対象に自然教室を行います。春の御苑の草花やキノコ、昆虫や鳥を観察しましょう。

春の自然教室“春の御苑にふれよう”

平成26年4月20日(日) 9:30~12:00

主催 環境省京都御苑管理事務所 TEL 075(211)6348
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
TEL 075(211)6364

講師 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
集合場所 京都御苑

受付時間 当日 9:00~9:20

参加費 保険料100円

その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があると便利です。

*以降の自然教室予定

夏の自然教室 平成26年 7月 27日(日) 9:30~12:00

秋の自然教室 平成26年 11月 16日(日) 9:30~12:00

冬の自然教室 平成27年 1月 25日(日) 9:30~12:00



新緑のトンボ池一般公開

- 自然環境保全の観点から閉鎖している「トンボ池」を期間限定で一般公開します。午前中はスタッフによるミニ解説も行います。
- 5月23日(金)~25日(日) 9:30~15:00
- 場所:富小路口から北東へ徒歩約5分
- 当日現地に受付 ■入場無料



京都御所春季一般公開

4月9日(水)~13日(日)

入場時間 9:00~15:30

入口:宜秋門(ぎしゅうもん) 出口:清所門(せいしよもん)

清所門の最終退出時間は16:15

照会先:宮内庁京都事務所 TEL:075(211)1211

「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角の創建以来の場所に建つ、「閑院宮邸跡」。収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。苑内散策の折に是非お立ち寄りください。

収納展示室 9:00~16:00 (16:30閉館)、入場無料

休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

会員募集

- 年会費 ●普通会費 1,000円以上
- 賛助会員 10,000円以上

■本会員への特典

1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

■申し込み、問い合わせ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL:075(211)6364

御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
ウメ	2月中旬~3月中旬	梅林
モモ	3月中旬~4月中旬	桃林
イトザクラ	3月下旬~4月中旬	近衛邸跡周辺
ヤマザクラ	3月下旬~4月中旬	苑内全域
サトザクラ	4月中旬~4月下旬	出水の小川付近



クヌギの雌花をついばむニューナイスズメ (写真①)

花の香りが漂う季節です。花の蜜を吸うメジロやヒヨドリはお得意様です。くちばしも蜜が吸いやすいように細長くやや下向きにつ

花々のおもてなし 西台 律子

蜜だけです。くちばしも蜜が吸いやすいように細長くやや下向きについでいます。蜜だけではなく花もごちそうです。クヌギの花をついばみにくるのはニューナイスズメ(写真①)です。穂状に垂れ下がっている黄色い花が雄花です。新しい枝の上部の葉脇に一個から三個ついている赤っぽい雌花の方を好んでついでいます。苑内ではクヌギだけではなくヤマザクラにも集まり、スズメのように花を元からちぎって蜜を吸います。メジロやヒヨドリが蜜を吸うときは花を落とすということがあります。長い舌はブラシ状になっていて花の前面から蜜を吸いやすくなっているからです。ニューナイスズメは

スズメによく似ていますが、頬に黒い斑紋がなく、オスとメスが異なつた色をしている鳥です。オスの背や腰は鮮やかな赤茶色で北の地域で繁殖し、暖地で越冬する漂鳥です。早春のコブシの花を競ってついでるのはヒヨドリ(写真②)です。山では、ツキノワグマなどもコブシやタム



コブシの花を食べるヒヨドリ (写真②)

シバの花を好んで食べます。コブシという名は、蕾の形やごつごつした集合果が「拳」の形に似ているところからついたと言われています。草花も小鳥たちの好物です。イカルは芽生えた柔らかいヤエムグラの葉を地面に降りて



スズメノカタビラの花をついばむマヒワ (写真③)

マヒワ(写真③)は冬鳥です。四月ごろサハリンやシベリア

方面に向かつて繁殖のために渡っていきます。一部は北海道などでも繁殖しています。胸の鮮やかな黄色がよく目立つ小さな鳥です。冬の間苑内ではサルスベリやメタセコイヤなどの実を食べています。スズメノカタビラが咲き始めると地面に降りて花も食べ始めます。スズメノカタビラの種子ができ始めると様々な小鳥たちが好んで集まってきます。

日照時間が長くなり、気温も上昇してきます。花々が開くと、ハエやアブ、ハチたちが蜜を求めて集まってきます。花が招いた虫たちも鳥のごちそうになり、雛への栄養源となつていきます。

皆さんは、京都御苑の中に「テニスコート」や「喫茶室」があるのをご存知でしょうか?



緑に囲まれたテーブル席

会社から近いこともあり、毎週金曜日のお昼は利用させてもらっています。特にうどんが美味しいと評判で、暑い夏には「うどん」がおすすめです。寒い冬には「鍋焼きうどん」が最高です。しかし数に限りがあるので、売切れの札がかかっていると残念な気がします。

持ちになりませんが……。ここでの食事でありがたいのは、食後にももらえる喫茶券です。少し離れた場所にある喫茶室でコーヒーが百円引きで飲めるのです。毎回、食事の後はこの券をもって喫茶室へ行くのが今や習慣となつていますが、御苑内の四季折々の景色や様子が見られ心が安らぎます。春には桜、秋には紅葉が……。大文字山も見られるので、冬には大文字山の雪で白い字になってる時なんかが、その美しさに感激してしまいます。他に利用させてもらっている中で「テニスコート」があります。京都市内の真ん中にあるので、とても交通の便も良い所です。

日頃から何気なく使っていたテニスコート。ある時、横浜のテニス仲間が京都旅行に

合わせて、テニスをした。私は「それなら御所を取りましようか?」と答えたら、彼は「御所?あの京都御所の中でテニスができるの?」と驚くのです。考えてみると、確かに京都御苑の扉に囲まれた中であつて、管理も京都御苑が運営されているので、私が言った事に間違いはありません。彼は「御所でテニスができるなら、一生の思い出として、市内観光を止めてでも、お願いしたい」と。今や彼は毎年一回、京都御苑のテニスコートにやってきました。そして彼の周りの人に「また京都御所でテニスをやってくるよ」と自慢しているそうです。

「苑内利用者の声」〜食堂・テニスコート〜 今川 博明

